

私たちの共通項。見つめよう、民医連マインド

2025年度 第56回医師総会

5月31日(土)、弘前プラザホテルで「私たちの共通項。見つめよう、民医連マインド」をテーマに84名(医師42名)の参加で開催しました。シンポジウムは有川洋祐医師、高橋夏生医師、小鹿瞳子医師より、①なぜ今ここでがんばっているのか、②青森民医連で継続して働き続けるために必要なこと、③自分たちが日々の業務で大切にしていることの3点を柱に報告し、SGDと全体討論で参加者自身もそれぞれのこれまでを振り返り、今後の課題や展望など話し合いました。

参加者の意見をリアルタイムに集計できるMentimeterより、各設問で出された回答は人間関係・家族・仲間といった回答が多く目立ち、コミュニケーション・感謝・挨拶・奨学金・なりゆきといった回答も複数ありました。給与・お金といった回答に関しては、青森民医連の給与は生涯賃金でみれば他の医療機関と比べて遜色ないものの、働き盛りの昇給ラインに課題があるようです。

参加者より、「医師もひとりの人間として個別性による対応が必要と感じた」「専門研修・初期研修の目標や具体的な内容を知ることができた」「繕わない率直な発表内容とディスカッションテーマでよかった」「私はいま何故ここにいるのだろうかを強く考えさせられた」「民医連の医師集団として居心地いい環境ができれば医療活動を発展させていけると思う、来てよかった」などの感想をいただきました。

医師委員会は、今回いただいたご意見やご感想も参考にあらゆる課題の矢面に立ち、県連医師団・職員仲間たち・組合員みなさんと一緒に、地域の方々と手を携えながら、地域のための存続をかけて、厳しさが続く情勢の荒波を乗り越えていく所存です。

(青森民医連 次長／柳谷円)



2025年度 通常総代会

津軽保健生活協同組合

第100回通常総代会

6月14日（土）津軽保健生活協第100回通常総代会と記念企画が開催されました。

今年度の通常総代会は100回という節目であることから、午前中に記念企画と題し各事業所が発表を行いました。組合員からは、利用している病院・診療所以外の院所の事業内容や取り組みを知ることができたと大変好評でした。記念企画最後に行われた新入職研修医紹介では、歓声や拍手などが絶えず、和やかながらも活気あふれる記念企画となりました。

午後から開催された総代会は、全3議案が提案され、例年よりも全体討論の時間を多くとり活発な討論が行われました。全3議案について賛成多数により採決されました。

総代会は終了予定時刻通り、滞りなく終了することができました。（津軽保健生活協 生協本部 総務部長／古村律子）



青森保健生活協同組合

2025年度通常総代会

今年度の通常総代会は、「誰もが健康で居心地よくくらせるまちづくりへの挑戦」すべての活動を「事業」ととらえて、多様な参加と協同で「組合員参加の危機」と「経営・事業継続の危機」を乗り越えよう！」をテーマに6月20日（金）開催しました。

第1号議案から第6号議案まで報告・提案され、活発な質疑討論の後、すべての議案が採決されました。相馬裕新理事長よりあいさつと新任理事・監事および退任理事・監事の紹介、生協6課題の支部表彰などが行われ、滞りなく終了することができました。

（青森保健生活協 総務部長／坂野友昭）



八戸医療生活協同組合

第37回通常総代会

6月27日（金）八戸医療生活協第37回通常総代会が総代142名の参加で開催されました。第1号議案から第8号議案まで報告・提案され、すべての議案が採択されました。今年度は来年度以降につなぐ重要な年となる事を共有し、3千万の増資運動の成功、300人の仲間ふやし、等6つの活動で、2025年度総代会スローガン「共同の力で、いのち輝く社会をつくる」を実践していくことを確認し、終了いたしました。

（八戸医療生活協 生協小規模多機能ホーム みなみるいけの家 所長／大坂弘子）



株式会社ファルマ

第38回 通常株主総会

～職員・患者・利用者の満足度を上げ、
地域とのつながりを大きく広げよう！～

5月28日(水) ファルマ本社会議室にて第38回通常株主総会が開催され、第6号議案まで全会一致で承認されました。

2024年度経営では薬価改定および処方箋枚数の大幅減少に加えて、改定ではファルマ弘前薬局の調剤基本料が類下げになるなど非常に厳しい経営となりましたが、人件費を中心とした経費削減により必要利益を確保することができました。

2025年度では、薬価差益に頼らない経営構造への転換と対人業務の強化を図ることを柱にしながら、DX化の推進とファルマの強みである地域活動を更に広げて地域とのつながりを増やすことを方針に掲げました。また、これらを実践するために職員一人ひとりの満足度を上げ、やりがい・働きがいを大切にすることを確認するとともに、経営に必要な診療報酬を勝ち取るために民医連に結集して今の政治を変えることを決意して定期総会は閉会となりました。

(株式会社ファルマ 代表取締役／崎野修)



一般社団法人あおもり健康企画

2025年度 定時社員総会

～地域に根差した薬局づくりを！～

5月20日(火)、本部会議室にて第10期定時社員総会が開催されました。

事業報告では創業30周年を迎え記念講演やレセプションを無事に開催できたこと、大野あけぼの薬局として日本 HPH ネットワークに加盟し国際 HPH カンファレンスにも参加出来たことが報告され、これからますます地域に根差した薬局づくりを進めていくことを確認しました。

経営報告では厳しい体制のなか、全役職員の奮闘により必要利益水準まで到達することが出来ました。年々薬価差益が減少していくなかで、しっかりと技術料を確保できたことが大きな要因となっていることが報告され、2025年度も引き続き技術料を確保しながら薬局 DX を推進していくことが確認されました。

今期役員体制に変更はなく、提案された議案は全て満場一致で承認され総会は滞りなく終了しました。

(一般社団法人あおもり健康企画

専務理事／成田卓弥)

社会福祉法人・花

令和7年度 第1回評議員会・理事会

6月21日(土) 令和7年度第1回評議員会・理事会が日中サービス支援型共同生活事業所「花の郷」2階多目的室にて開催されました。

評議員会では、難しいサービス事業を展開する中で、県や市から県内初となる事業委託を打診されることは、「花」としての期待や役割が今後ますます高くなるので、より一層の努力をして利用者への質の高いサービスを提供してもらいたいと意見がありました。また令和7年度は、理事、監事、評議員等の役員改選が行われ、午後の理事会で第15期理事長に成田清春が重任となり、厳しい情勢と一緒に乗り越え、「地域に根差した福祉」を目指していくことを確認し閉会となりました。

(社会福祉法人・花 統括長／鈴木哲也)



評議員会・理事会

社会福祉法人 虹

2025年度 社会福祉法人虹職員総会

7月5日(土)、はまなす会館にて職員総会を開催し、全体で38名が参加しました。青森民医連古舘正志新事務局長から連帯の挨拶をいただいた後、特別報告2本(①デイサービス虹のひろば「居宅・利用者アンケート結果と今後の事業活動」、②昨年の「いのちまもる9.26総行動 参加報告」)、各事業所総括方針、新入職員紹介、民医連勤続表彰、スローガンの承認、閉会挨拶のあと記念撮影をして盛会のうちに終了しました。

事業所総括方針では、多くの事業所がスライドを使って報告し、スライドショーを自動再生で流したり写真で報告したりして、普段行き来の無い事業所の事業活動が理解でき、大変好評でした。

2025年度は法人開設20周年を迎え、民医連らしい福祉・介護活動を展開し、社保平和活動に取り組んでまいります。(社会福祉法人虹 事務局長／佐藤真人)



2025 原水爆禁止国民大行進

北海道／青森県引き継ぎ集会

6月1日（日） 原水爆禁止国民大行進の青森県引き継ぎ集会が青森市駅前公園で開催されました。たくさん



の団体から総勢171名が集い、青森保健生協からも約50名が参加しました。引き継ぎ集会では西秀紀青森市長から激励のメッセージをいただき、当法人組織部の三上優太郎が代読

いたしました。当法人をはじめとする多くの団体はもちろん、自治体からの関心と応援をいただけていることを大変喜ばしく思います。

青森市内行進では、人々の平和への願いを肌で感じる事ができました。老若男女さまざまな世代の方々が同じ目的意識を持って歩む姿は、非常に感動的でした。

私は平和行進に初めて参加しましたが、過去を振り返るだけでなく、未来へと希望を繋ぐ大切な行動であると身に染みて感じました。今年は被爆から80年という節目の年で、全国各地で平和を呼びかける活動が精力的に行われていきます。核兵器の非人道性・被爆者の声・被爆の実情を国内外に届け、核兵器廃絶をめざす運動を広げていきましょう。（青森保健生協組織部／葛西玲斗）



お茶とジュース財政でカンパの呼びかけ

太平洋コース（青森／野辺地）

日本は核兵器禁止条約への批准を

6月4日（水）晴天の下、北海道から東京までの通し行進者と共に青森保健生協・おおもり健康企画の職員等が参加し、核兵器のない平和で公正な世界を求めて浅虫から横浜町までの太平洋コースを行進しました。横浜町では石橋勝大町長より激励をいただき、平内町では核兵器廃絶を求める署名もたくさんいただきました。

私は昨年広島で行われた原水禁世界大会に参加し、被爆二世・三世を含め今もお後遺症やトラウマに苦しんでいる方、思い出したくない地獄のような惨劇を語り継いでくださる被爆者の話を実際に聞き、元の形を留めない建物を見て、私が考えていた以上の核兵器の恐ろしさを目の当たりにしました。

今年の行進アナウンスでは、現在NHKで放送中の「あんぱん」のモデルであるやなせたかさんの話に触れています。その中でやなせさんは、戦争の最大の敵は「飢え」であると言っています。アンパンマンは自分の顔を弱い立場の人へ分け与え、困っている人を助けます。一方でいたずらばかりするバイキンマンをやっつけることは決してありません。昨年、日本被団協がノーベル平和賞を受賞し、今年には被爆80年の節目の年に当たります。戦争を体験している方の高齢化が進み、次の世代へと語り継ぐ役割が私たちに課されています。

核兵器のない平和な世界の実現を、被爆者とともに達成しましょう。（おおもり健康企画 大野あけぼの薬局／笹村明日香）



日本海コース（浪岡／弘前）

原水禁の思いを伝えるために

6月5日（木）、弘前市から秋田県の矢立峠に向け国民平和大行進が行われ、健生病院からは25人が参加しました。通し行進者の三浦コト子さんと共に弘前市役所を出発し、秋田県の矢立峠でバトンを引き継ぎました。

朝はまず弘前市役所前に集まり出発集会を行った後、松森町のふれあい広場に向かって行進を開始しました。その後、大鰐町に移動し若松会館で昼休憩、大鰐警察署前まで再度行進しました。大鰐町を出発し碓ヶ関まで移動した後は道の駅いかりがせきまで行進し、小休止の後、引き継ぎ場所の道の駅やたて峠へ移動、引き継ぎ集会が行われました。

昼休憩の際に、今回参加した平和行進は、西本あつし氏がたった1人で1日も休まずに歩き続け核兵器廃絶を訴えたのが始まりということを知りました。現在では全国で引き継がれている行進の始まりが1人の思いから始まったことに驚いたとともに、終戦80周年を迎える



2025年まで受け継がれてきた核兵器廃絶を訴える行進を、核兵器を体験した方が少なくなってきた時代にも、絶やすことなく受け継いでいくことが今後の使命なのだと感じました。（健生病院研修医／村上蘭）



平和への願い～国民平和大道進に初めての参加～

6月5日（木）涼しい風が吹くなか国民平和大道進に参加しました。毎年この時期になると平和大道進のお知らせを見ていましたが、なかなか参加することが出来ず、今回自らの意志で初めての参加となりました。

参加するにあたり、国民平和大道進とはどういうことを意味するのか調べました。1945年8月アメリカが広島・長崎に落とした原子爆弾によりたくさんの方の命が奪われ、今も被爆者は後遺障害などに苦しんでいるのです。しかし世界にはまだ12,000発の核兵器が存在し、紛争や戦争が続いています。核兵器のない平和な世界の実現を願うことを目的とした運動が国民平和大道進ということでした。

距離にすれば1km弱で、あつという間の行進でした。引継ぎ集会の最後に全員で【青い空は】という歌を歌いました。もちろん初めてのことで、みんなに合わせて見よう見真似で歌いました。いただいた歌詞の後でゆっくり読んでみると、そこにも原爆の恐ろしさや悲しさ、その想いをこれからも伝えたいという強い気持ちが書かれていました。

平和な世界を求める被爆者の願いをつなぎ、訴え続けることを大事にしたいと思いました。今回実際に参加して感じたことを忘れず、自分に出来ることを継続したいと思います。

（介護付き有料老人ホーム
生協たむかひの家／

澤村佳苗）



第46期 北海道・東北地協 辺野古連帯行動

～沖縄の過去と現在を体験的に学んで～

.....

5月19日（月）～21日（水）まで北海道・東北地協の辺野古連帯行動に参加してきました。参加者は年齢や職種も幅広く、事務局合わせて総勢22名の参加でした。

3日間の中で印象深かったのは、辺野古基地建設反対の座り込みと糸数アブチラガマの見学です。座り込みゲートでの光景は異様なものでした。横一列に並ぶ警備隊の前に、おじい・おばあが座り込み、一生懸命抗議し続けている姿が印象的でした。更に警備隊が増え、警察も出てきて最終的に抱えられながら移動を余儀なくされるのですが、これを3971日継続して行っていることに感銘を受けました。沖縄のきれいな海を守るためにも、もっと若い人たちが一緒になって声をあげていかなければならないとつくづく感じました。そして基地があるということは一番先に攻撃を受ける場であるということ念頭に置き、沖縄だけの問題ではない事を伝えていかなければならないと思いました。

ガマの見学では、ガマの中が真っ暗で、一瞬ライトを消した時の異様な空気がとても重く感じました。何も見えない環境で音だけが敏感に感じ怖さを覚えたのと、負傷した兵士が精神的におかしくなる気持ちがわかったような気がします。光があることの大切さ、日々生きていること、物がそろっている中で看護できることに感謝しながら生きていきたいと思いました。

3日間いろんな方との交流ができて、とても楽しく過ごす事ができました。快く送り出してくれた上司と職場の皆さん、そして運営側の事務局の皆さんありがとうございました。

（藤代健生病院 第4病棟

看護長／土谷咲子）



海の上に見えるのが建設中の辺野古基地



座り込みをするおじい・おばあたち



強制的に移動させられる様子

2025年春の「看護介護ウェーブ」



街宣行動に新入職員の皆さんも白衣で参加しました

5月10日（土）に、2025年春の「看護介護ウェーブ」を開催しました。あいにくの曇り空でしたが、県内から総勢50名以上の看護介護職員を中心とした仲間が津軽保健生協会館に集まり、集会・街宣行動・スタンディングを行い、医療介護の現場の厳しい実態と職員の増員を訴えました。

声もいただきました。現在学習している「ケアの倫理」でも、ケアを大切に考えることが重要視されています。このような活動が自分たちの地域医療を存続させることにつながることを、そしてそれが地域の患者さんの生活と暮らしを守ることにつながることを実感した1日になったと思います。参加した皆様お疲れさまでした。（藤代健生病院総看護長／鳴海由紀子）

声もいただきました。現在学習している「ケアの倫理」でも、ケアを大切に考えることが重要視されています。このような活動が自分たちの地域医療を存続させることにつながることを、そしてそれが地域の患者さんの生活と暮らしを守ることにつながることを実感した1日になったと思います。参加した皆様お疲れさまでした。（藤代健生病院総看護長／鳴海由紀子）



青森県連 第57期 医療・介護安全学習会

多職種で取り組む転倒転落防止対策と身体拘束の縮小

5月24日（土）、青森県総合社会教育センターにて開催し、職員138人が参加しました。講師にはパラマウントベッド株式会社顧問・杉山良子氏を招き「多職種で取り組む転倒転落防止対策と身体拘束の縮小」について講演いただきました。



「多職種で取り組む転倒転落防止対策と身体拘束の縮小」をテーマに、『転倒転落問題は医療者にとって避けて取れない重大課題であり、転倒転落をゼロにすることはできないが、転倒転落による事故を身体面で最小限にとどめる努力が必要である。そのためには、全患者に無制限に発生すること、患者の要因が大きく影響すること、発生状況の把握が重要であることなど基本に立ち返り意識して対応することを常に念頭に置いて私たちは対応しなければならない。リスクを回避するには患者にとって良くないことを起こさない、起こった時の患者の身体へ与える影響を大きくしないことを考え、リスク要因を洗い出し対策を考え事実行していかなければならない。身体拘束につ

いても、社会的に考えると拘束は犯罪であるということ、医療における治療のためや自傷他害など人における拘束を最小限にとどめなければならないが、現実にはなかなか厳しい状況もあるので、拘束そのものを理解して関わる必要がある。』という内容でした。

後半は転倒転落に対する物的対策の考え方について、パラマウントベッド株式会社副代表の奥俊介氏より、転倒転落による傷害をゼロに近づけるRoomT2の取り組みが紹介されました。また医療従事者にとって転倒転落は医療と切り離せない課題であるので、フロアから質問が多数あり、有意義な学習が出来ました。（県連医療安全委員会

生協さくら病院副総看護長／最上正一）



RoomT2副代表 奥俊介氏活動を紹介してくれました



今回の学習＆交流集会を通じて、コロナ禍で関わる機会の少なかった青年職員と横のつながりを持つことができ、良い刺激を受けました。学んだ知識や気づきを日々の業務に積極的に活かしていきたいと思っています。（中部クリニック

医事課／鳴海騎士）

学習会終了後は、敷地内でバーベキュー交流をしました。雨天の中ではありませんでしたが、様々な事業所から参加した普段関わることがない青年職員同士で美味しいお肉を食べながら親睦を深めることができて、楽しい時間を過ごすことができました。

学習会では、青年委員のフルマ弘前薬局 中西菜季氏、青森保健生協組織部 三上優太郎氏による子ども食堂について・食料支援に関する各法人での取り組みについての講演と、NPO法人あおもり男女共同参画をすすめる会理事長の篠崎有香氏によるジェンダーの視点からみた貧困についての講演があり、子ども食堂や食料支援が必要とされる背景や、日本が直面している貧困問題について知ることができました。グループワークでは各法人の取り組みを交えながら活発な意見交換が行われ、私たちにできることは何かを民医連の視点で考える貴重な機会となりました。



雨でしたが楽しいゲームも！

学習＆交流集会

青年職員対象

5月17日（土）青年職員対象の学習＆交流集会が花岡農村環境改善センターにて開催され、55人が参加しました。



青森県民医連 第57期 臨時総会

6月20日（金）オンラインでおこなわれた第57期臨時総会は、青森県民主医療機関連合会規約に則り開催されました。

総会の冒頭、田代実会長より「格差の拡大、新自由主義に代表されるような自己責任だという考え方が大きくなってきています。また、すべての個人には人権があり尊厳が守られることを私たちは追及していくことが大事です。今回の臨時総会は、県連事務局長の交代と県連理事の補充の提案がされます。今の情勢と経営の課題、地域医療をまもる課題をふまえながら、みんなで力を合わせて県連機能を充実させ發揮していきたいと考えています」と挨拶がありました。

続いて来賓あいさつ後、秋山和範資格審査・議事運営委員長より、必要代議員数の出席があり総会が成立していること及び議事日程が報告され、県連理事会を代表して宮本達也事務局長より役員推薦の提案がありました。

その後、オンラインにて出席代議員による選挙が行われ、圧倒的多数により古舘正志新事務局長、富田知子新理事が信任されました。選出された古舘新事務局長は、「青森県民医連の事業所の経営困難な状況を民医連に結集しながら極難を乗り越えていきたい」と挨拶されました。

（青森県民医連 次長／對馬康文）

県連事務局人事往来

青森県民医連の事務局長という大任を拝してから、あっという間の2年でした。

「経営危機の打破」「医師の確保と養成と配置」「憲法を守るたたかい」等など、振り返るとたたかいと対応を繰り返してきた年月でした。気軽に相談し合える全国の仲間も増え、改めて民医連の団結力や優位性を実感しました。

今後、役割は変わりますが、引き続き青森県民医連に結集し、事業所や法人の機能を十分に発揮しながら、民医連の医療・介護・福祉の発展に努めていきます。

ありがとうございました。

みやもと 達也（青森事務所）
兼任 宮本 達也 ⇒青森保健生協 6/20付



6月20日（金）の臨時総会において事務局長に選任された古舘正志です。

全国の医療機関が、診療報酬の抑制によって深刻な経営難に陥っています。物価・賃金の上昇に適切に対応した診療報酬の仕組みが必要であり、いまここで我々が声をあげる必要があります。

このような情勢の中、重責を担うことになりますが、各事業所で奮闘している全役職員が全日本・地協・県連の運動方針を深く学び、民医連に結集して困難を乗り越えていきましょう。よろしくお願いいたします。

こだて まさし（青森保健生協）
兼任 古舘 正志 ⇒青森事務所 6/20付



あなたと民医連をつなぐ月刊誌

いつでも元気
MIN-IREN

2025 8月号 380円 好評発売中

戦後80年 いま、語らねば

対話の中に希望はある

けんこう教室 認知症が気になるあなたへ(上)

お金をかけない健康法 認知症の予防⑫

まごのチカラ 海外編 インドネシア

食と健康 フレイル予防にちよいプラス



発行＝青森県民医連研究所 〒113-0034 東京都文京区湯島2-4-4 平和と労働センター8階 電話 03(5842)5656 FAX 03(5842)5657

初めての出向、県連弘前事務所勤務となりました。わからないことばかりですが、皆さんにご指導いただきながら県連でのお仕事を勉強していこうと思っています。よろしくお願いいたします。

つがわ 津川なつみ（株式会社ファルマ）
兼任 ⇒弘前事務所 6/1付



しらとり しゅほ（弘前事務所）
兼任 白取 趣帆 ⇒津軽保健生協 7/1付

うちのメコッコ

vol. 85

♥ name

ケロちゃん
メス

♥ age

2歳前後



我が家の保護猫「ケロ」を紹介します。ケロは出産経験のある元野良猫です。小さい体で頑張って子猫を育てていましたが、見かけるたび子猫が減っていくのを見て心を痛め、不幸な猫を減らす為病院と相談の上、出産シーズンが

来る前に TNR (野良猫を捕獲し、不妊・去勢手術を行い、元の場所に戻すこと) を決めました。桜カットもしてもらいました

が、結局はそのまま外には戻さず我が家の子として迎えました。

最初は全く懐かず触れず大変でしたが、寒さや暑さや飢えの心配をせず部屋で安心して寝ている姿を見て保護してよかったと心から思います。先住猫の2匹とこれからも仲良く幸せに長生きしてほしいです。
(社会福祉法人・花 つかのファーム/田村志保)



私の三つ星★★★★

オススメ

地元に愛され続けるクレープ屋さん
——黒石市の名店

「リスボン菓子店」

青森県黒石市に、長年地元の人々に親しまれているクレープ屋さんがあります。街の若者たちにとっては、放課後や休日の定番スポット。もちもちのクレープ生地に甘さ控えめのクリームやフルーツを包んだメニューは、

甘いものが苦手な男性にも人気があります。

小さな子にはミニクレープ、他にもワッフルやシェイク、スティックケーキなどもあります。

実はこのお店、2年前に火災で全焼してしまい、一

時は閉店を余儀なくされました。しかし「またあの味が食べたい」「あの場所が帰ってきてほしい」という多くの声が地域に広がり、半年以上の準備期間を経て見事に再建。再オープンの日には、懐かしさと喜びが入り混じった笑顔で行列ができたほどです。

現在の営業時間は平日10時～13時、土日10時～17時で月・火が定休日です。材料がなくなれば早めに終わってしまったり、祝日でもお休みの場合がありますの

で、詳細はInstagramで確認してください。

長く愛され、今も変わらず地元に根づくこのクレープ屋さん。黒石市を訪れた際には、ぜひ一度足を運んでみてください。

(健生黒石診療所/

花田由美子)



7月 2025年7月 第57期第15回理事会報告

- >> 1. 会長あいさつ
- >> 2. 全日本民医連理事会報告関係
- >> 3. 人事
- >> 4. 決裁・承認事項
 - (1) 奨学生関係
 - ・看護 新規申請1名
 - (2) 県連・地協・全日本関係
 - (3) 各種委員会から
- >> 5. 協議事項
 - (1) 2024年度決算所見(八戸)
 - (2) 各法人要対策チェック項目点検結果
 - (3) 医科法人資金繰り表
 - (4) 第57期臨時総会報告
 - (5) 原水禁 2025世界大会への代表派遣
 - (6) 青森県民医連理会長アピール 2025年参議院選挙にむけて
- >> 6. 医師・医学生関連
- >> 7. 報告事項
 - (1) 全日本民医連通達・声明、地協関係
 - (2) 地協
 - (3) 県連・共闘関係
- >> 8. 各法人・事業所から
 - ・医科法人の総代会(人事報告)